

必ずお読みください



VECTORWORKS®
A NEMETSCHEK COMPANY

リファレンスガイド

JAPANESE VERSION

2026版

ライセンス管理

Vectorworks 2026ネットワーク版では、サーバー／クライアント形式でライセンスを管理し、Vectorworks製品を使用することができます。サーバーマシン上のライセンス管理ソフトウェアで、同時に使用できるクライアントライセンスの数を管理します。このため、使用的するすべてのクライアントマシンにVectorworksネットワーク版をインストールしておき、必要な時だけライセンス管理ソフトウェアからライセンスを取得してVectorworksを起動することができます。また、有効にした場合はライセンスを持ち出すこともできます（教育用バージョンおよび他の一部のケースでは持ち出しが許可されていません）。クライアントでは、Vectorworksプログラムの起動時にクライアントマシン上で許可されたモジュールを選択します。

Vectorworks Site Protection Server（以下、ライセンス管理ソフトウェア）のコアには、米国Reprise Software, Inc.製のライセンス管理ソフトウェア、Reprise Licence Manager（RLM）を使用しています。管理設定には、タスクバー（Windows）またはメニューバー（Mac）のシステムメニュー、あるいは必要に応じてサーバーのブラウザからアクセスできます。

サーバーのプロテクション方式にはアクティベーションキーとドングルの2種類がありますが、2023からはアクティベーションキー方式のみの提供となっております。

ライセンス管理ソフトウェアは以下の機能を持ち、個々のVectorworksプログラムの起動やネットワーク全体での使用状況などを管理します。

- クライアントマシンがライセンス管理ソフトウェアに接続した時に、ソフトウェアの起動を承認
- ライセンスプール（ライセンス全体）の管理、ライセンスの持ち出しを有効にした場合はライセンスの持ち出しを許可
- ライセンス利用状況の表示
- ログによるライセンス利用状況・接続情報の出力
- ユーザー権限・ライセンス持ち出し可能モジュール・持ち出し上限などを管理

ライセンス管理者以外のユーザーは、[クライアントマシンでVectorworksを実行する](#)に進んで、サイトプロテクション機能を備えたVectorworksプログラムの使用に関する情報を参照してください。

[クライアントマシンでVectorworksを実行する](#)
[ライセンス管理ソフトウェアをインストールする](#)
[ライセンス管理ソフトウェア](#)
[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)
[サーバー管理のホームスクリーン](#)
[トラブルシューティング](#)

クライアントマシンでVectorworksを実行する

クライアントマシンでのインストール

クライアントマシンでVectorworksインストールプログラムを使用し、Vectorworksスイート全体のプログラムをインストールします。特定の製品へのアクセスは、ライセンスおよびサーバーの指示によって決まります。Vectorworks製品の要件を満たすコンピューターにソフトウェアをインストールする必要があります。

Vectorworksプログラムを起動する

Vectorworksプログラムを起動すると、ライセンス管理ソフトウェアと通信します。サーバーマシンへのネットワーク接続を確保すると共に、サーバーマシンでサーバーソフトウェアを実行している必要があります。

注: ソフトウェアライセンスを持ち出している場合、期間内はネットワーク接続は不要です。

1. Vectorworksプログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開きます。サーバー接続オプションは、システム管理者がすでに設定している場合があります。これらの設定は変更しないでください。

パラメータ	説明
接続	
サーバーを自動検出	ライセンス管理ソフトウェアに自動的に接続します。サーバーマシンのポート番号フィールドはグレイアウトされています。VPNやセグメント化されたネットワーク環境によりサーバーの自動検出に問題がある場合も想定し、通常はこのオプションの選択を解除したまま、プライマリサーバーにサーバー情報を入力します。
サーバー設定	サーバー設定ダイアログボックスが開き、サイトプロテクションに利用可能なサーバーを管理できます（以下を参照）。
プライマリサーバー	サーバーを自動検出にチェックを入れていない場合は、サーバーのIPアドレスとポート番号を入力します。ポート番号は、RLMサーバーのポート番号と同じ番号に設定します。デフォルトは5053です。
モジュール	(Vectorworks製品の) 必要なモジュールや使用を許可されているモジュールを選択します。
サードパーティ	サードパーティモジュールダイアログボックスが開き、サードパーティから提供されたモジュール、サーバーのライセンスファイルに存在するモジュール、使用を許可されているモジュールを選択できます。
持ち出し	許可されている場合は、指定した日数にわたり、その期間はサーバーに接続することなく、選択したモジュールのライセンスを持ち出せます。持ち出し期間の最大日数は通常、30日です。

返却	持ち出したライセンスは期限前に返却できます。返却をクリックしてサーバーに接続し、持ち出したライセンスを返却します。 持ち出し期間は自動的に失効します。持ち出したソフトウェアを期限前に返却する場合は、返却をクリックするだけで済みます。持ち出し期間が終了すると、クライアントのライセンスは自動的に解放され、ソフトウェアを起動できなくなります。
持ち出しライセンスの有効期限：__日間	ソフトウェアのライセンスを持ち出す日数を、通常は30日間を上限に入力します。ライセンスは持ち出し期間の最終日の深夜0時に自動的に解放され、ソフトウェアは起動できなくなります。
情報	ソフトウェアのライセンスが持ち出されている間は、持ち出し中のモジュールと残りの持ち出し期間（日数または時間数）が表示されます。
起動時に表示しない	チェックを入れると、起動時にログイン設定ダイアログボックスが表示されなくなります。

2. モジュールリストで、起動したいVectorworks製品を選択します。

モジュールを複数選択することはできません。

注：モジュールを選択してログインした後は、Vectorworksプログラムを終了して再度ログインしない限り、別のモジュールに変更できません。

注：ライセンスを持ち出している最中は、モジュールの切り替えは出来ません。持ち出したライセンスを返却してから、モジュールを変更してください。

Vectorworksの実行中に使用できる作業画面は、選択したモジュールによって異なります。

3. ログインをクリックします。Vectorworksアプリケーションが正常にサーバーマシンと通信して、ライセンス管理ソフトウェアが起動を許可すると、Vectorworksプログラムが起動します。

注：ライセンスを取得できなかった場合には、対象のモジュール名と共にダイアログが表示されます。

Vectorworksアプリケーションの実行中は、Vectorworksの環境設定ダイアログボックスのその他ペインでログイン設定ボタンをクリックして、ログイン設定ダイアログボックスにアクセスできます。現在接続しているサーバーのIPアドレスとポート番号を表示するには、接続をクリックします。起動時に表示しないを設定しており、ログイン設定ダイアログボックスをもう一度起動時に表示させたい場合も、この操作でログイン設定ダイアログボックスの設定を変更して表示させることができます。

サイトプロテクションサーバー設定

サーバー設定ダイアログボックスには、接続可能なサーバーが一覧表示されます。サーバー接続は通常、システム管理者が設定します。

使用可能なサーバーとポート番号は接続順に一覧表示されます。プライマリサーバーがダウンしているか、モジュールのチェックアウトを許可しない場合は、リスト内の次のサーバーに接続されます。

ライセンス管理ソフトウェアを管理するには：

ログイン設定ダイアログボックスで**サーバー設定**をクリックします。サーバー設定ダイアログボックスが開きます。

パラメータ	説明
サーバーのIPアドレスとポート番号	サーバーのIPアドレスとポート番号を指定します。
サーバーリスト	使用可能なサーバーが、優先順位に従って一覧表示されます。
追加	現在入力しているサーバー情報を、使用可能なサーバーのリストに追加します。
削除	現在選択しているサーバーを、サーバーリストから削除します。プライマリサーバーは削除できません。
上へ／下へ	選択したサーバーをリスト内で上または下に移動し、リストの優先順位を変更します。

注：ネットワーク上のサーバーを確認する時間は、LoginDialog.xmlファイルの<AutoFindMaxTime>パラメータで編集できます。デフォルト値は1秒です。

接続エラー

Vectorworksプログラムは、ライセンスが持ち出されていない限り、定期的にライセンス管理ソフトウェアと通信しています。接続は数十秒ごとに検証されます。

一時的なネットワークの問題によってサーバーへの接続が切断されると、ダイアログが表示されます。再試行をクリックして再接続を試みてください。再接続されると、作業を続けることができます。再接続できない場合は、保存して終了をクリックします。保存されていないすべての作業ファイルが保存され、Vectorworksプログラムが終了します。

予期していなかった接続問題の原因を調査するか、システム管理者に連絡して、サーバー接続の復旧支援を受けてください。管理者は、ライセンス管理ソフトウェアの稼動状況を確認できます。

Vectorworksライセンスの持ち出しと返却
ライセンス管理ソフトウェアのエラーメッセージ

Vectorworksライセンスの持ち出しと返却

ライセンスの持ち出し

ライセンスの持ち出しを有効にしている場合、持ち出し期間中はネットワークに接続しなくてもVectorworksプログラムを使用できます。出張時など、サーバーに接続できない場合でもVectorworks製品

を使用できます。ライセンス管理ソフトウェアは、持ち出したライセンス数と経過した持ち出し時間を管理／記録しています。有効期限が切れたライセンスを持ち出すことはできません。

注：クライアントマシンに複数のバージョンのVectorworksプログラムがインストールされている場合は、最新のバージョンのライセンスを持ち出してください。以前のバージョンのライセンスを持ち出した後に、最新のバージョンを持ち出そうとすると、エラーが起こります。

1. Vectorworksプログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開き、ライセンスを持ち出せます。

Vectorworksの起動時にログイン設定ウインドウを表示しないよう設定している場合は、Vectorworksの環境設定ダイアログボックスのその他ペインでログイン設定をクリックして、Vectorworksプログラムを再起動します。

2. **持ち出しライセンスの有効期限**： 日間に持ち出したい日数を入力して、**持ち出し**をクリックします。**返却**ボタンが使用できるようになります。

持ち出し期間は最大30日です。

許可されている期間より長くライセンスを持ち出そうとすると、ダイアログが表示されます。持ち出し可能な期間内で設定してください。制限されているモジュールのライセンスを持ち出そうとすると、対象のモジュール名と共にダイアログが表示されます。使用を許可されているモジュールを選択してください。

3. **情報を**クリックして、持ち出しの情報を表示します。

参考に持ち出しの有効期限と残りの期間が表示され、持ち出したモジュールの名前も表示されます。

注：オペレーティングシステムの地域設定（Windows）または言語と地域の設定（Mac）に応じて、日時が表示されます。

ライセンスの返却

設定した期間にわたってライセンスを持ち出す場合、返却する必要はありません。設定した持ち出し日数が経過すると、持ち出したライセンスは自動的に返却されます。ライセンスを期限前に返却するには、Vectorworksプログラムを起動して、ライセンス管理ソフトウェアに接続します。

1. Vectorworksプログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開き、ライセンスを返却できます。

注：Vectorworksの起動時にログイン設定ウインドウを表示しないよう設定している場合は、Vectorworksの環境設定ダイアログボックスのその他ペインでログイン設定をクリックして、Vectorworksプログラムを再起動します。

2. **返却**ボタンをクリックします。

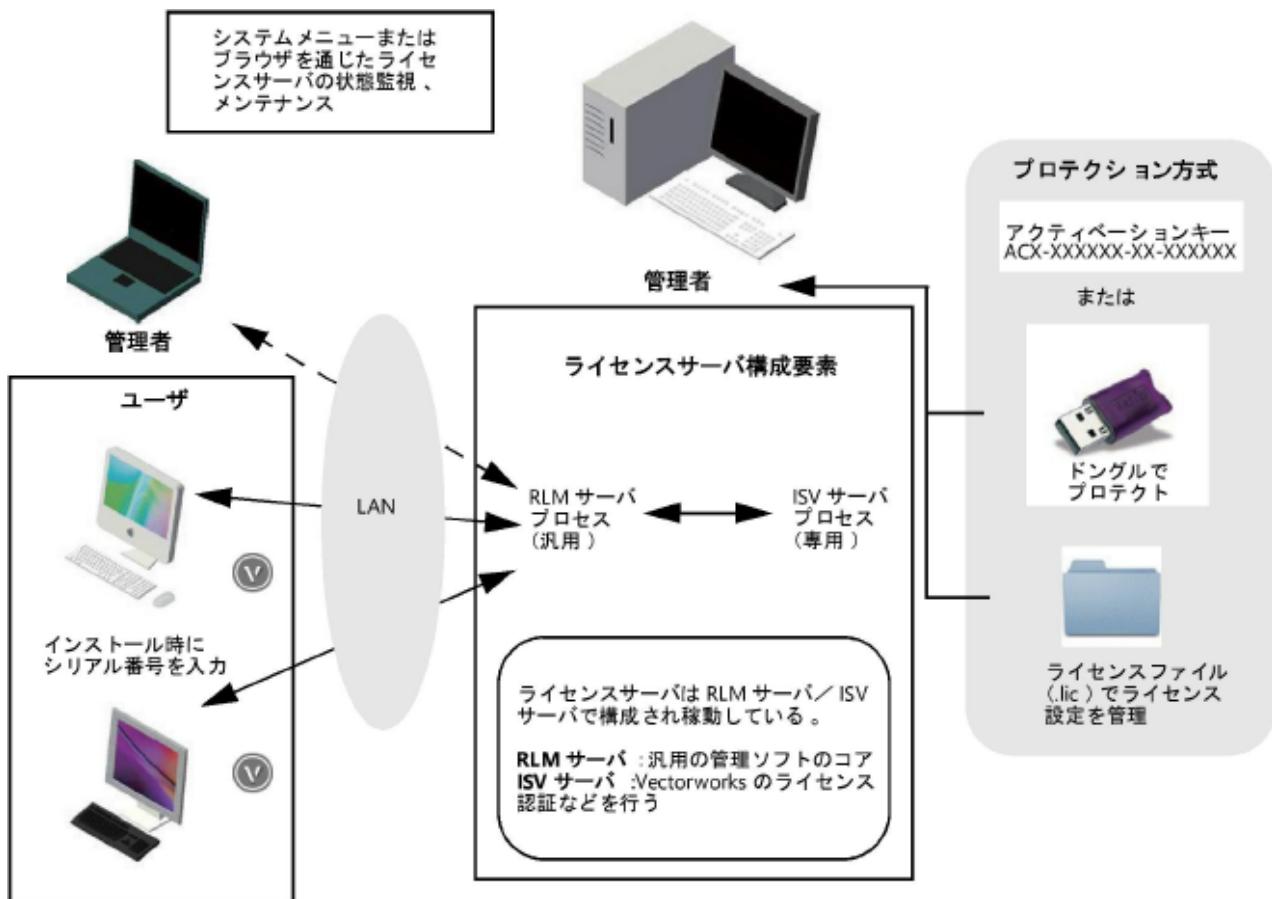
返却が終了します。ダイアログボックスの返却ボタンがグレイアウトし、代わりに持ち出しボタンが有効になります。同時に、ライセンス管理ソフトウェア側の利用可能なライセンス数が返却された数だけ増加します。

* ライセンス持ち出し中にクライアントマシンが破損するなど、サーバーと接続できなくなった場合には、持ち出したライセンスを返却できません。設定した持ち出し日数が経過するとライセンスは自動で返却されます。

クライアントマシンでVectorworksを実行する

ライセンス管理ソフトウェア

ライセンス管理ソフトウェアは、Reprise License Manager (RLM) サーバーとIndependent Software Vendor (ISV) サーバーの2つで構成されます。これらのサーバーは、TCP/IPで通信して連携します。



RLMサーバー

RLMサーバーは、米国のライセンス管理ソフトウェアベンダReprise Software, Inc,が開発したサーバー管理プログラムです。ライセンス管理ソフトウェアのコア機能として、以下のネットワーク管理タスクを行います。

- ISVサーバーとUDPポート（ポート番号はランダム）で通信を行い、連携して動作します。
- VectorworksクライアントとTCP/IPとポート（5053）で起動確認のための通信を行います。

- TCP/IPポート（5054）を通じてブラウザと通信し、ライセンス管理ソフトウェアの管理情報を表示します。

注：RLMサーバーはさまざまなオプション機能を持っていますが、Vectorworksネットワーク版では一部を除き使用しません。

ISVサーバー

Vectorworksクライアントのライセンス管理を行います。ライセンスの利用状況の確認、ログ管理、その他オプション機能を使用することができます。ISVサーバーはVectorworks, Inc.による専用のサーバーで、さまざまな画面で「vektorwrx」と表されます。

.....
[ライセンス管理ソフトウェアをインストールする](#)
[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)
[サーバー管理のホームスクリーン](#)

ライセンス管理ソフトウェアをインストールする

インストールと運用には、サーバーマシンで管理者（Administrator）権限のあるユーザーアカウントが必要です。サーバーとクライアントに同じマシンを使用しないでください。インストーラーには、インストールシステム要件やインストールに関する既知の問題が一覧表示されています。インストールを円滑に行うため、事前にシステム要件を確認してください。

システム要件

サーバーマシンのシステム要件は、Vectorworksを実行するクライアントマシンほど厳しくありません。最新バージョンに固有のシステム要件は、[Webサイト](#)を参照してください。

ネットワークプロトコル

ライセンス管理ソフトウェアとクライアントのVectorworks Design Suite製品は、動作環境が異なります。サーバーマシンのIPアドレスは、原則的には固定してください。ただし、同じサブネット内であれば、サーバーマシンのIPアドレスを固定しなくても、IPアドレスの自動検知機能により接続できます。ライセンスの持ち出しを許可する時は、サーバーマシンの固定IPアドレスを使用してください。サーバーのIPアドレスを自動割り当てにすると、クライアントが持ち出したライセンスを返却できないことがあります。

サーバーマシンでのインストール

サーバーマシンでは、専用のインストールプログラムを使用して、ライセンス管理ソフトウェアに必要なコンポーネントなどをインストールします。インストールにはアクティベーションキーが必要です。ドングルを使用する場合は、ドングル（プロテクトキー）に必要なドライバーソフトウェアをインストールします。ドングルを使用しない場合はアクティベーションキーが必要です。

サーバーマシンにライセンス管理ソフトウェアをインストールするには：

1. 実行ファイルを起動します。

Vectorworks Site Protection Server セットアップダイアログボックスが開きます。デフォルト設定の使用を推奨します。

パラメータ	説明
RLMポート番号	通常は、デフォルトのポート番号5053のままにしておくことを推奨します。
Web ポート番号	通常は、デフォルトのポート番号5054のままにしておくことを推奨します。
ISV ポート番号	通常は空のままにして、次にランダムに開くポート番号を割り当てます。
ISVの遅延起動	ISVサーバーの起動時間を、指定した秒数だけ遅らせます。これにより、IPアドレスを取得してライセンスを確認する時間を確保できるほか、ドングルドライバーを参照する時間も確保できます。
インストール後にライセンス管理ソフトウェア実行する (Macのみ)	インストール完了時に、ライセンス管理ソフトウェアを起動します。
アプリケーションをWindowsファイアウォールの例外リストに追加する (Windowsのみ)	ファイアウォールの警告を生成せずに、アプリケーションからポートを通じて情報を送信できるようにすることで、通信エラーを回避します。
Windows起動時に（サービスとして）自動で起動する/Mac起動時に（デーモンとして）自動で起動する	サーバーソフトウェアを自動的に起動し、バックグラウンドプロセスとして実行できるようにします。
シリアル番号自動取得機能を有効にする	Vectorworksクライアントインストーラーのネットワークブロードキャスト機能を使用して、サーバーから自動的にシリアル番号を入手することで、Vectorworksをインストールするたびにシリアル番号を何度も入力する必要がなくなります。VPNやセグメント化されたネットワーク環境によりサーバーの自動検出に問題がある場合も想定し、通常はこのオプションの選択を解除したまま、インストール時にシリアル番号を手入力します。

2. 次へをクリックし、Webアクセス設定にアクセスします。

Webユーザーインターフェイスは、そのWebブラウザのインターフェイスにhttpsを使用しており、デフォルトで暗号化されています。Webインターフェイスを有効にすることで、ブラウザからサーバー設定を制御できます。証明書と秘密鍵がある場合は、Site Protection Server セットアップでそれらを提供します。ない場合は、RLMで独自鍵と自己署名証明書が生成され、Webブラウザのインターフェイスの接続が暗号化されます（これによりブラウザに安全でない接続に関する警告が表示されますが、無視できます）。

3. 次へをクリックし、ライセンス設定にアクセスします。認証情報を入力します。

4. インストールをクリックしてから、完了をクリックします。

インストール後、サーバーのタスクバー（Windows）またはメニューバー（Mac）の通知領域にライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューアイコンが表示されます。通常良く使われる管理機能は、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからアクセスできます。必要に応じてブラウザのインターフェイスを使用して、高度な機能にアクセスしたり、ライセンスサーバーを必要な時にリモートで制御したりできます。

ライセンス管理ソフトウェアをWindowsサービス（Windows）またはデーモン（Mac）としてインストールした場合、マシンを起動すると、ライセンス管理ソフトウェアは自動的に起動して実行し続けます。自動的に起動しない場合は、RLMサーバーを再起動するに記載されているようにrlm.exe（Windows）またはrlm（Mac）を起動します。Windowsでは、サーバーソフトウェアを（Windowsサービスではなく）スタンドアロンで起動すると、コマンドプロンプトウインドウが開いたままになりますが、最小化できます。

ユーザー管理

セキュリティ上の理由から、アカウント名とパスワードを設定する必要があります。インストール時は、アカウント名とパスワードはいずれもデフォルトでadminに設定されています。最初に作成されるアカウントは常に管理者タイプのアカウントになります。インストール後、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからWebインターフェイスを開くと、パスワードを設定できます。

User Managementでは、3つの異なる権限レベルを持つ他のタイプのアカウントを設定できます。[ユーザー管理](#)を参照してください。

その他のインストール設定

サーバーを最初にインストールし、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを通じてライセンス情報を後で指定できます。アクティベーションキーでアクティベートする場合は、ライセンスファイルが自動的に生成されます。（まれなケースとして）アクティベーションにdongleを使用する場合は、dongleと共に必要なライセンスファイルが提供されます。

ライセンス管理ソフトウェアでは、利用中のライセンスの種類を検出し、再度アクティベートするか最新のライセンスファイルを取得して、深夜にライセンスを自動更新します。ポート設定は維持されます。

注：ドングルのドライバーソフトウェアに関する詳細は、[Thales](#)をご確認ください。

ファイアウォールアクセスの設定

インターネットアクティベーションを使用するには、URLをsite-activation.vectorworks.net、接続ポートを80（https）にします。

高セキュリティ環境（プロキシ設定）

プロキシ設定は、環境変数のHTTPS_PROXYとHTTPS_PROXY_CREDENTIALSで制御されます。

例：

HTTPS_PROXY=myproxyaddress.com

HTTPS_PROXY_CREDENTIALS=username:password

Windowsでは、プロキシ設定はRLMによってオペレーティングシステムから自動検出されます。

ライセンス管理ソフトウェアをアンインストールする

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**Vectorworks Site Protection**>アンインストールを選択します。

インターネットでアクティベートしたライセンスを無効にして別のコンピューターにインストールするか、ライセンスファイル、ログ、および構成設定をすべて削除するかを選択できます。

起動・認証時の確認事項

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、通常必要なサーバー管理者タスクにアクセスできます。

通常の操作にはライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを使用することを推奨しますが、**サーバー管理画面を開く**コマンドを選択することで、ブラウザのインターフェイスを通じてすべての管理機能にアクセスし、さまざまなライセンス管理業務を行うことができます。ブラウザのインターフェイスは、必要に応じてライセンスサーバーをリモートで制御する場合に便利です。



ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューにアクセスするには：

1. Windowsでは、コンピューター画面の右下にある、タスクバーの通知領域に表示されているアイコンを右クリックします。Macでは、コンピューター画面の右上にあるメニューバー上のアイコンをクリックします。
2. システムメニューが開きます。メニューコマンドを選択します。

システムメニュー命令	説明
Vectorworks Site Protection	
サーバー管理画面を開く	デフォルトのブラウザを起動し、サーバー管理のホームスクリーンに移動します。 サーバー管理のホームスクリーン を参照してください。Windowsユーザーは、システムメニューアイコンをダブルクリックしてホームスクリーンを起動できます。
アンインストール	ライセンス管理ソフトウェアをアンインストールします。

コントロール	ライセンス管理ソフトウェアがアクティブの場合は、コントロールメニューに「起動中」と表示されます。
スタート	停止しているサーバーを起動します。
リスタート	すべての設定とライセンスファイルを更新して、サーバーを再起動します。RLMサーバー全体が完全に再起動するわけではなく、クライアントのワークフローも中断されません。
ストップ	サーバーを停止します。再起動するには、 スタート をクリックします。
ライセンス	
アクティベーションキーの入力	ライセンス管理ソフトウェアをアクティベーションキーで有効にしている場合は、発行されたアクティベーションキーを入力し、ライセンスファイルを生成して有効にします。アクティベーションキーは記憶されます。ライセンスを更新するには、ダイアログボックスを開いて OK をクリックするだけで、キーを使用したライセンスが再度有効になります。
ライセンスファイルを追加	ライセンスファイル (.licファイル) を選択します。
ライセンス	製品ごとに現在使用中のライセンスと使用可能な数が表示されます。必要に応じて、任意のライセンスを無効にできます。
解除	以前にアクティベートしたサーバーライセンスを無効にして、サーバーソフトウェアを別のコンピューターで実行できるようにします。 注: ライセンスを無効にすると、ライセンスサーバーが再起動され、現在接続されているユーザーとの接続が切断されます。
プロダクト	使用可能な製品ライセンスが一覧表示され、製品ごとに現在使用中のライセンス数が表示されます。
使用履歴	使用履歴ダイアログボックスが開き、次で説明しているように、製品別の使用統計が表示されます： 使用履歴を表示する
アクセス権の設定	アクセス権の設定ダイアログボックスが開き、次の動作を行うことができます： アクセス権限を設定する
診断	
アクティベーション診断	アクティベーションに問題がある場合、考えられる原因の特定に役立ちます。
デバッグログを表示	デバッグログには設定が記載されており、サーバーの起動で起こるすべてのイベントや、サーバーおよび環境に関するその他の情報が記録されます。問題が発生した際の解決のヒントになります。詳細は、 デバッグログ を参照してください。

レポートログを表示	レポートログファイルは、サーバーで使用できるライセンス関連の統計データを含むテキストファイルです。製品別の使用状況などの履歴情報が含まれています。詳細は、 レポートログ を参照してください。
ライセンス管理ソフトウェアについて	ライセンス管理ソフトウェアの現在のバージョンとRLMのバージョンが表示されます。
ヘルプ	このヘルプシステムが開きます。
終了	システムメニューを閉じますが、ライセンスサーバーはユーザーが停止しない限り実行され続けます。

注：ライセンス管理ソフトウェアでは、利用中のライセンスの種類を検出し、再度アクティベートするか最新のライセンスファイルを取得して、深夜にライセンスを自動更新します。ポート設定は維持されます。



ライセンスサーバーについて通知や問題がある場合は、注意が必要なことがシステムメニューアイコンによって示されます。

-
- ライセンスサーバーやライセンスの状態を監視して管理する
- 使用履歴を表示する
- アクセス権限を設定する
- トラブルシューティング

ライセンスサーバーやライセンスの状態を監視して管理する

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを使用すると、ライセンス管理ソフトウェアの状態確認や管理が簡単に行えます。

リスタートコマンドを選択しても、RLMサーバー全体が完全に再起動するわけではなく、クライアントとの接続も切断されません。このコマンドを使用すると、すべての設定とライセンスファイルが更新されます。クライアント側で権限を変更したり、ライセンスファイルをアクティブにしたりした場合も、自動的に再起動されます。

サーバーを停止してから再起動すると、クライアントとの接続が切断されます。

サーバーの状態を確認するには：

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを選択します。

コントロールコマンドを使用すると、実行中かどうかに関係なく、現在の状態が表示されます。

ライセンスサーバー（ISV／RLMサーバー）を停止、起動、または再起動するには：

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、コントロール>ストップまたはスタート、あるいはコントロール>リスタートを選択します。

使用可能な製品ライセンスのリストと、現在使用中のライセンス数を表示するには：

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを選択します。

プロダクトコマンドを使用すると、使用可能な製品がバージョン別に一覧表示されます。リストの括弧内に、使用中のライセンス数と使用可能なライセンス数が表示されます。

[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)

使用履歴を表示する

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、ライセンスの使用状況と使用履歴を監視できます。

使用履歴を表示するには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**使用履歴**を選択します。

使用履歴ダイアログボックスが開き、時間の経過に伴うユーザー数のグラフが表示されます。

2. プロダクトリストで製品とバージョンを選択すると、使用履歴が表示されます。

[レポートログ](#)から取得した使用統計がグラフに表示されます。レポートログを直接参照するには、システムメニューから**診断>レポートログを表示**を選択します。

[サーバー稼動状況ログ](#)

[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)

[レポートログ](#)

アクセス権限を設定する

ルールを作成することによって、アクセス権限を制御します。これらのルールは許可された製品と持ち出し可能な期間のセットであり、特定のクライアントまたはクライアントグループ、あるいはコンピューターに適用されます。デフォルトでは、すべてのクライアントにアクセスが付与されています。ルールで例外を設定できますが、この設定は必要に応じて取り消すことができます。

アクセス権限を表示して設定するには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、**アクセス権の設定**を選択します。

アクセス権の設定ダイアログボックスが開き、ユーザーグループの権限ルールが一覧表示されます。ルールは、許可されている製品や予約されている製品のセットで、特定のユーザーまたはコンピューターに適用されます。

パラメータ	説明
-------	----

ルール	クリックしてルールメニューを開きます。
ルールの追加	ルールの追加／編集ダイアログボックスが開き、権限ルールにルールを追加できます。
ルールの編集	ルールの追加／編集ダイアログボックスが開き、現在選択しているルールを編集できます。
ルールを削除	現在選択しているルールを削除します。
ルールリスト	既存の権限ルールを一覧表示します。
最大持ち出し日数	ライセンスファイルに従って、ユーザーがモジュールを持ち出せる最大日数を設定します。 ライセンスの持ち出し を参照してください。 ライセンスの持ち出しを一切禁止するには、日数を0（ゼロ）に設定します。
リストにいないユーザーのライセンスサーバーへのアクセス許可／拒否	デフォルトでは、すべてのユーザーにライセンスへのアクセスが付与されており、例外のルールのみが設定されています。この場合は、 許可 が選択されています。しかし、 拒否 を選択すると状況が逆になり、ルールでアクセスが付与されない限り、すべてのユーザーがライセンスへのアクセスを拒否されます。

2. ダイアログボックスの上部にあるルールメニューで**ルールの追加**を選択してユーザーグループの権限ルールを設定するか、ルール領域を右クリックし、コンテキストメニューから**ルールの追加**を選択します。
3. ルールの追加/編集ダイアログボックスが開きます。

パラメータ	説明		
ルール名	ルールに名前を付けます。この名前は、ルールのアクセス権限リストに表示されます。		
タイプ	ルールのユーザーを定義する方法を、ユーザー名、コンピューター名、またはIPアドレスから選択します（ サーバー構文 を参照）。		
ユーザー	サーバーの使用履歴から取得されたユーザー名またはコンピューター名のリストを表示します。最後に使用したユーザーがリストの1行目に表示されます（IPアドレスはログから取得できないため、表示されません）。	リストでユーザー名またはコンピューター名を選択して、その選択対象に適用するルールを作成し、 追加 をクリックしてユーザーリストに送信します。	ユーザー名、コンピューター名、またはIPアドレスを入力して 追加 をクリックし、リストに追加することもできます。名前にスペースは使用できません。
ユーザーリスト	グループに追加されたユーザーが一覧表示されます。ユーザーを削除するには、 ユーザーリスト で項目を選択して 削除 をクリックします。		

Vectorworksの最大インスタンス数	ユーザー1人につき実行できるVectorworksのインスタンス数を設定します。通常、この値は1です。
許可プロダクト	リスト内のユーザーが起動を許可されている製品を指定します。
すべて／なし	すべての製品を一度に選択するか、選択解除します。
予約プロダクト	リストのユーザーに対して、ライセンスのプールから製品を予約します。それら特定のユーザーのみが、予約されている製品ライセンスへのアクセスを付与されます。このタイプのルールに複数のユーザーが含まれる場合は、予約されているライセンスを共有します。
すべて／なし	すべての製品を一度に選択するか、選択解除します。

4. 「ユーザー」は、ユーザー名、コンピューター名、またはIPアドレスで表すことができます。グループはユーザーのリストで構成されています。ユーザーグループに必要なルールを定義します。たとえば、Vectorworks ArchitectおよびFundamentals製品のみ使用を許可されるユーザーグループもあれば、Vectorworks LandmarkおよびFundamentalsのみ使用できるユーザーグループもあります。製品を選択していない場合、リスト内のユーザーはサーバーにまったく接続できません。ユーザーグループには、ライセンスを予約することもできます。それぞれの状況に応じて、グループごとに個別のルールが必要です。ルール内のユーザーは固有にする必要があります（同じユーザーに2つの異なるルールを設定することはできません）。
5. **OK**をクリックして、アクセス権の設定ダイアログボックスに戻ります。
6. 既存のルールを編集するには、ルールを選択してからダイアログボックスの上部にあるルールメニューでルールの編集を選択するか、ルールをダブルクリックするか、あるいはルールを右クリックしてコンテキストメニューからルールの編集を選択します。
7. 既存のルールを削除するには、ルールを選択してからダイアログボックスの上部にあるルールメニューでルールを削除を選択するか、ルールを右クリックしてコンテキストメニューからルールを削除を選択します。
8. **OK**をクリックして、アクセス権の設定ダイアログボックスを閉じます。

ライセンス管理

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー

サーバーオプションを指定する

ユーザー管理

サーバー管理のホームスクリーン

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、通常必要なサーバー管理者タスクにアクセスできます。通常の操作にはライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを使用することを推奨しますが、ブラウザのインターフェイスを通じてすべての管理機能にアクセスし、さまざまなライセンス管理業務を行うこともできます。まず、サーバー管理のホームスクリーンを起動します。

サーバー管理のホームスクリーンを開くには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューから、**Vectorworks Site Protection**>サーバー管理画面を開くを選択し、アカウントを設定してログインします。ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを参照してください（Windowsでは、システムメニューアイコンをダブルクリックできます）。

あるいは、ライセンス管理ソフトウェアを実行しているマシン上でブラウザを起動します。アドレスに<https://localhost:5054>と入力して確定します。

サーバー機以外のマシンから管理画面を開くには、以下のようにURLとしてIPアドレス等を指定することで操作できます。

<https://サーバーマシンのIPアドレス:ホスト番号>

2. インストール時にRLMで独自鍵が生成されており、自己署名証明書でWebブラウザのインターフェイスの接続が暗号化されている場合は、ブラウザに警告が表示されることがあります。そのまま進めても差し支えありません。
3. ログインすると、すべての管理機能にアクセスできます。セキュリティ上の理由から、必ずログインする必要があります。次のいずれかの操作を行います：
 - 初めてログインする場合は、ユーザー名とパスワードにadmin/adminと入力します。その後、新しいパスワードの入力を求められます。リストされている要件を満たすパスワードを選択してください。
 - 以前に設定したユーザー名とパスワードでログインします。
4. サーバー管理のホームスクリーンが開きます。

The screenshot shows the 'License Server Status' page from the Vectorworks software. At the top, there's a navigation bar with links for Home, Activate, Diagnostic, Documentation, and a user icon. Below the navigation, it displays 'License Server Status on [REDACTED] (port 5053)'. On the right, there are buttons for 'Server Action:' with options 'Reread / Restart All Servers' and 'Shutdown All Servers'. The main content area has a table titled 'Total Servers: 1'. The table lists six server pools under the heading 'vektorwrx': 1 (fundamentals), 2 (designer), 3 (renderworks), 4 (braceworks), 5 (connect_cad), and 7 (rlm_roam). Each row provides details like Product version, Expiration date, Count, Soft Limit, In-Use, Roam, Reserved, Hostid, Timeout, Share, Total Checkouts, and Named User List. The table also includes a 'Start Time' and a 'Port: 5059' indicator.

この画面から、サーバーとライセンスのステータス確認、サーバーのクイック操作、ユーザーの管理、診断の実行、およびその他の操作を行うことができます。これらのコマンドの一部は、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューから使用することもできます。ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを参照してください。

ホームスクリーンの機能

機能	説明
vektorwrx	vektorwrx サーバーを展開すると、プール内のライセンスに関するすべてのステータス情報が表示されます。
Server Action (サーバーアクション)	クリック操作へのショートカットです。 Reread / Restart All Servers (リリード／リスタートオールサーバー) : ライセンスファイルを更新し、再起動を実行します。ライセンスファイルを置き換えたり、オプションファイルを読み込んだりすることもできます（これは、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからコントロール>リスタートを選択する場合と同じです）。 Shutdown All Servers (シャットダウンオールサーバー) : ISV サーバーを終了するおよび次を参照してください： RLM サーバーを終了する
	Settings (セッティング) : ユーザーを管理し、パスワードを変更します。 ユーザー管理 を参照してください。 Change Password (チェンジパスワード) : 自身のパスワードを変更するショートカットです。 System Info (システムインフォ) : RLMのシステム情報を表示します。 About (アバウト) : RLMサーバーについての情報を表示します（英語）。 Logout (ログアウト) : ホームスクリーンからログアウトします。
Home (ホーム)	サーバー管理のホームスクリーンに戻ります。
Activate (アクティベート)	この機能はライセンス管理ソフトウェアには適用されません。
Diagnostics (ダイアグノスティクス)	License Server Diagnostics画面が表示され、現在のサーバーステータスを確認したり、問題を診断したりできます。 Download をクリックすると、診断情報をファイルに保存できます。
Documentation (ドキュメンテーション)	RLMのオンラインマニュアルを表示します（英語）。 注： マニュアルの一部は、Vectorworksネットワーク版に対応していません。

サーバーステータス表

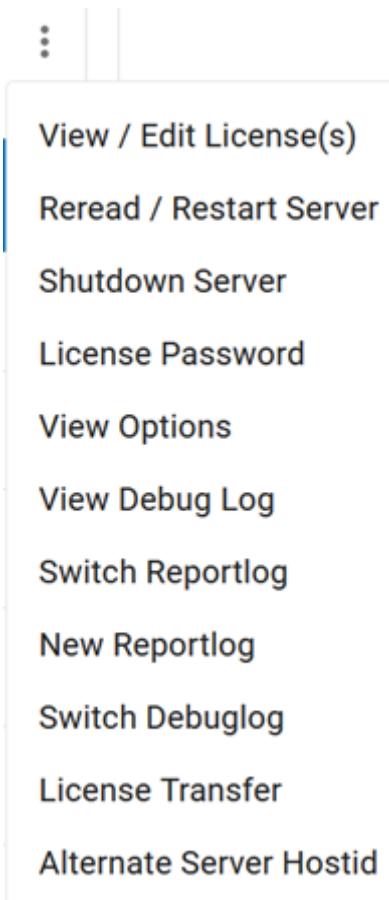
サーバー管理のホームスクリーンにある表に、**vektorwrx**サーバーのステータスが表示されます。

サーバーの各行に、製品、バージョン、ライセンスの種類、ライセンス数、使用中のライセンスなどが表示されます。三角矢印をクリックすると各行が展開され、使用中のライセンスに関する詳細情報が表示されます。

パラメータ	説明
-------	----

Pool (プール)	ライセンスプール番号です。
Product (プロダクト)	Reprise Software社の内部で使用するライセンス持ち出し設定ファイルrlm_roamが表示されます。
Version (バージョン)	製品バージョンが表示されます。
Expiration (エクスパレイション)	ライセンスの有効期限が表示されます。「Permanent」は有効期限のないライセンスです。
Count (カウント)	使用可能なライセンス数（所有ライセンス総数から、その製品で予約されているライセンス数を引いた数）が表示されます。
Soft limit (ソフトリミット)	本ソフトウェアでは、カウント値と予約されているライセンス数の合計（ライセンスの総数）が表示されます。
In-Use (インユース)	現在使用中のライセンス数が表示されます。
Roam (ローム)	現在持ち出し中のライセンス数が表示されます。ライセンスを持ち出しているクライアントがない場合は、項目が表示されません。
Reserved (リザーブド)	予約されているライセンス数が表示されます。
Hostid (ホストID)	ライセンスがdongleなどでハードウェア保護されているかが表示されます。本ソフトウェアでは、サーバーソフトウェア自体がdongleで保護されているため、ANYと表示されます。
Timeout (タイムアウト)	タイムアウトの数が表示されます。
Share (シェア)	ライセンスが共有されているかどうか（1台のマシン上で同じユーザーがいつも開いているか）が表示されます。本ソフトウェアでは、ライセンスの共有機能は許可されていないため、Noneと表示されます。同じユーザーが同じマシン上で複数のVectorworksを開く場合、共有機能は許可されていないため、複数のライセンスが使用されます。
Total Checkouts (トータルチェックアウト)	ライセンスがチェックイン／チェックアウトされた回数が表示されます。
Named User List (ネームドユーザーリスト)	ユーザー情報が表示されます。

サーバーメニュー



vektorwrxサーバーステータス表の右上隅からアクセスできるサーバーメニューで、ライセンス管理ソフトウェアの各機能を使用できます。以下では、主要機能の概要を詳細な説明へのリンクと共に提示します。

注：これらの機能の多くは、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューからより簡単に実行できます。[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)を参照してください。

メニュー命令	機能
View / Edit License(s) (ビュー／エディットライセンス)	ライセンスファイルを表示または編集します。詳細は次を参照してください： サーバーのポート番号を変更する
Reread / Restart Server (リリード／リストアトサーバー)	Reread / Restart Server画面が開き、ライセンスファイルを更新または置き換えできます。 ISVサーバーを再起動する を参照してください。 この操作はステータス画面のISV Serversからも行えます。
Shutdown Server (シャットダウンサーバー)	Shutdown License Server画面が表示され、ISVサーバーを終了できます。 ISVサーバーを終了する を参照してください。 この操作はステータス画面のISV Serversからも行えます。 サーバー起動オプション でrlmdownコマンドを無効にしている場合、このボタンは表示されません。

Licenses Password (ライセンスパスワード)	ユーザーのパスワードを入力すると、そのユーザーに関連付けられているライセンスが表示されます。そこから、ユーザーに割り当てられたライセンスを追加または削除できます。
View Options (ビューオプション)	RLMオプションを表示します。次を参照してください： RLMオプションを制御する
View Debug Log (ビューデバッグログ)	デバッグログを表示します。次を参照してください： デバッグログ
Switch Reportlog (スイッチレポートログ)	指定したISVサーバーのレポートログを閉じ、指定した名前の新しいログに書き込み先を変更します。詳細は次を参照してください： 別のレポートログファイルに切り替える
New Reportlog (ニュー レポートログ)	指定したISVサーバー用に、指定した名前で新しいレポートログを作成します。詳細は 新規レポートログを作成する を参照してください。
Switch Debuglog (スイッチデバッグログ)	デバッグログを閉じ、指定した名前の新しいログに書き込み先を変更します。詳細は、 別のデバッグログファイルに切り替える を参照してください。
License Transfer (ライセンストラnsファー)	本ソフトウェアでは使用できません。
Alternate Server Hostid (オルタネートサーバー ホストID)	本ソフトウェアでは使用できません。

.....

ユーザー管理

[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)

[サーバー構文](#)

[サーバーオプションを指定する](#)

ユーザー管理

セキュリティ上の理由から、ユーザー名とパスワードの使用を推奨します。管理者は他のユーザーを設定し、サーバーへのアクセスと制御に関する権限を割り当てることができます。

注：管理者権限の割り当てには注意が必要です。

ユーザー名と権限を設定するには：

1. 管理者として、**Vectorworks Site Protection**>サーバー管理画面を開くを選択してログインします。
2. メイン画面の右上隅にあるプロフィールアイコンから、**Settings**をクリックします。

Settings画面が開きます。**User Management**をクリックします。

注：Settings画面からは、User Managementに加えて、RLM Debug LogおよびRLM Optionsにもアクセスできます。デバッグログを参照してください。

User Name	Account Type	Actions
admin	admin	trash bin more
ViewOnly	view	trash bin more

3. 新規ユーザーを作成するには、ユーザー名を入力して権限を割り当てます。

- **View**：すべてのISVサーバーの状態、各ISVサーバーで利用可能な製品、および使用状況に関する情報を閲覧できますが、変更はできません。
- **Manage**：ISVサーバー（再読み込み／再起動、終了、オプションとログの閲覧）を制御できるほか、診断情報を閲覧およびダウンロードできます。
- **Admin**：管理者の権限に加え、管理者はユーザー（ユーザーの作成、変更、および権限レベルの制御）を管理できます。

4. **Create User**をクリックします。

5. ユーザー名とパスワードをクリップボードにコピーできるようになります。この情報を新規ユーザーに送信すると、新規ユーザーがログインできます。
6. User Management画面にユーザーが一覧表示されます。Actions列のメニューから、既存ユーザーの**Reset Password**または**Edit Permissions**をクリックするか、ゴミ箱アイコンをクリックしてユーザーを削除します。管理者ユーザーは少なくとも1人必要になります。

RLMオプションを制御する

デバッグログ

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー

RLMオプションを制御する

ISVサーバーがVectorworksプログラムのライセンスに関する特定の機能を管理するのに対して、RLMサーバーはライセンス管理のコア機能を処理します。サーバーオプションを指定するのセクションでは、ユーザー、コンピューター、およびIPアドレスのグループを作成して、Vectorworks固有のISV権限を割り当てる方法を詳細に説明しています。このセクションでは、RLMオプションを通じてグループに権限を割り当てる類似の方法について説明します。

割り当てまたは制限できる権限は、**ユーザー管理**で定義されます。そこからユーザーを管理する方がはるかに簡単です。

RLM Optionsからユーザー権限を管理するには：

1. 管理者として、**Vectorworks Site Protection**>サーバー管理画面を開くを選択してログインします。
2. メイン画面の右上隅にあるプロフィールアイコンから、**Settings**をクリックします。
3. RLM Optionsを選択します。

Edit RLM Options画面が表示されます。

4. rlmオプションを指定または編集します。

オプションは、RLMソフトウェアと同じネットワークライセンスフォルダに置かれているrlm.optファイルに保存されます。

デバッグログ

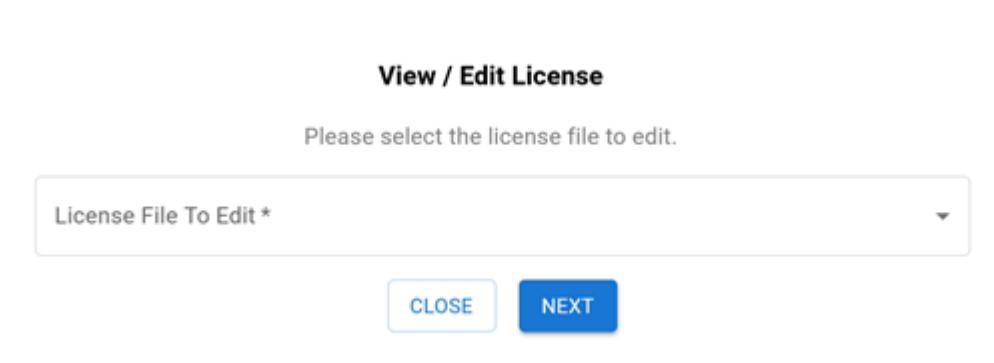
サーバーのポート番号を変更する

まれに、ライセンス管理ソフトウェアで使用するポート番号を変更する必要があります。たとえば、別のアプリケーションですでにデフォルトのポート番号を使用していることがあります。ポート番号はインストール時に簡単に変更できます。これを行わなかった場合は、ライセンスファイル (.lic) を編集してポート番号を変更してください。

注：ライセンスファイルの編集には、十分な注意が必要です。

1. サーバー管理のホームスクリーンにあるサーバーメニューから、**View / Edit License(s)**を選択します。

View / Edit License画面が開きます。



2. **License File to Edit**リストから、編集したいライセンスファイルを選択します。
3. **NEXT**をクリックします。

Edit license file画面が表示されます。以下に、ライセンスファイルの例を示します。

```
HOST XXXXXXXXXXXX license=XXX 5053
ISV vektorwrx
LICENSE vektorwrx fundamentals 2026 permanent 3 max_roam=30
issued=6-jul-2023 options=model=floating _ck=XXXXXXXX sig="XXXXXX"
```

- **5053** : RLMサーバーのポート番号です。デフォルト値は5053です。クライアントとの接続に必要なポートです。
 - **ISV vektorwrx**: 内部的に使用しているISVサーバーのポート番号を指定するパラメータです。デフォルト設定では空いているポートを自動的に割り当てます。
4. ポート番号を変更するには、以下を入力します。`ISV vektorwrx port=nnnn` (nnnnは希望するポート番号)
- 注:** 他の箇所は編集しないでください。ライセンス管理ソフトウェアが起動しなくなる恐れがあります。
5. **Update License File**ボタンをクリックして、変更した内容を保存します。
6. ライセンス管理ソフトウェアを再起動します。 [RLMサーバーを終了する](#)を参照してください。

バージョンアップした場合、またはFundamentalsライセンスやプラグインモジュール（Renderworks、Architectモジュール、Landmarkモジュール、Spotlightモジュール、Design Suiteモジュール）を追加購入した場合などは、古いライセンスファイルを削除し、新しく入手したライセンスファイルと入れ替えてから、必要に応じて適宜編集してご利用ください。

ライセンスファイルの置き換えを行う場合は、以下にご注意ください。

* ライセンスの持ち出し中はライセンス条件を変更できません。持ち出されているライセンスをすべて一旦回収してから（返却させてから）、作業を行ってください。

サーバー管理のホームスクリーン

サーバー起動オプション

サーバー稼動状況ログ

レポートログファイルは、サーバーで使用できるライセンス関連の統計データを含むテキストファイルです。モジュールごとの利用状況など、デバッグログより詳しい履歴情報が含まれています。利用統計を取るのに有効です。

デバッグログは、サーバーコマンドの全データをファイルに書き出します。デバッグログは、ISVサーバーのログ（ライセンス関連のログデータ）で構成されています。サーバーの不具合に関する情報も含まれています。

注: デバッグログのOUTはクライアントがライセンスを使用中であることを示し、INはクライアントソフトウェアが終了して、ライセンスがサーバーに返却されたことを示します。

レポートログ

デバッグログ

レポートログ

レポートログでサーバーの統計情報を取得します。レポートログには任意の名前を付けて、サーバーマシンの任意の場所に置くことができます。ただし、事前にフォルダを作成しておく必要があります。ログの種類を、detailed、standard (std) 、またはsmallに設定できます。種類を指定しない場合は、standardログが作成されます。standardでは、一般的なクライアントのライセンス情報が一覧表示されます。smallには最小限のライセンス接続情報のみが含まれ、detailedにはクライアントのOSや日付などの詳細が含まれます。ログをLog File Converter（ログファイルコンバータ）と共に使用して、さらなるデータ解析を行うには、stdまたはdetailedを選択します。

注：ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューから**使用履歴**を選択すると、使用履歴がグラフィック表示されます。

レポートログを開く

インストール時にレポートログが作成されます。デフォルトではProgram Dataフォルダに保存されます。

レポートログを開くには：

1. ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューから、**診断>レポートログを表示**を選択します。
2. ReportLogファイルがテキストビューアアプリケーションで開きます。

別のレポートログファイルに切り替える

使用中のレポートログから、別のログファイルを指定して切り替えることができます。レポートログを切り替えるには、新しいレポートログを事前に用意しておく必要があります。

1. サーバー管理のホームスクリーンにあるサーバーメニューから、**Switch Reportlog**を選択します。

Switch Reportlog画面が開きます。

Switch Reportlog

ISV: vektorwrx

This command will close the current report log file for the specified ISV server (if one exists), and continue logging into the new file name specified.

File Name *

YES

NO

2. **File Name**に、ログが置かれているファイルパスをファイル名を含めて入力します。

3. **YES**をクリックします。

レポートログが別のファイルに切り替わります。

新規レポートログを作成する

現在出力中のレポートログファイルを別名保存し、元のファイルでログ取得を続けることができます。バックアップファイルを作成するのに便利です。

注：ROTATEコマンドは、バックアップのログファイルを自動的に作成します。運用状況によっては、ログファイル容量が増える可能性があります。定期的にバックアップすると、ファイルの容量を抑えることができます。詳細は[サーバーオプションを指定する](#)を参照してください。

1. サーバー管理のホームスクリーンにあるサーバーメニューから、**New Reportlog**を選択します。

New Reportlog画面が開きます。

New Reportlog

ISV: vektorwrx

This command will move the current report log file contents to the new file specified, and continue logging into the original file name. This command is useful for log file rotation.

File Name *

YES

NO

2. **File Name**に、バックアップログを置くファイルパスをファイル名を含めて入力します。

3. **YES**をクリックします。

現在のレポートログファイルの内容が、指定したバックアップログに保存されます。また、現在のレポートログにログ内容の記述が続けられます。

レポートログ情報を使用して統計分析を行う

レポートログはテキストファイルで作成されますが、ファイルコンバータユーティリティのLog File Converterを使用して、Excel形式に変換できます。

ログファイルを変換すると、割り当てられた期間内に実行されている各製品のライセンス数を確認したり、サーバーの統計情報に関する計算を行ったりできます。こうした情報は、管理者にとって有益な基準データとなります。

レポートログを変換するには：

1. LogFileConverterを参照します。

Windowsでは、Log File Converterはライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内に置かれています。Macでは、Log File Converterはパッケージファイル内に置かれています。ファイルを右クリックしてパッケージの内容を表示を選択し、**Contents>MacOS**に移動してLogFileConverter.appを探します。

2. Log File Converter.app (Mac) またはLogFileConverter.exe (Windows) をダブルクリックします。

LogFile Converterユーティリティが開きます。

3. **Select log file**をクリックして、RLM log fileダイアログボックスを開きます。レポートログファイルを指定します。
 4. **Save excel file**をクリックして、Excel fileダイアログボックスを開きます。変換したファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
 5. **Convert**ボタンをクリックして、テキストファイルを、Excelなど一般的なスプレッドシートプログラムで使用できるファイルに変換します。
 6. 変換が完了したら、**Quit**ボタンをクリックしてLog File Converterを閉じます。

作成されたExcelファイルを開いて、グラフの作成やさまざまな解析に使用できます。

変換されたスプレッドシートファイルには、次の情報が含まれています。

パラメータ	説明
Date	統計が生成された日付です。
Version	Vectorworksのバージョンです。
Product	Vectorworksのモジュール名です。
Seats	モジュールごとに使用可能なライセンスの数です。
(時刻表示)	<p>クライアントが起動すると、使用中のライセンス数が増加します。このパラメータには、時間帯ごとに使用されているライセンスの最大数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">1日の途中でライセンスを更新し、特定のモジュールが利用できなくなると、使用できない時間帯はアスタリスク (*) で示されます。翌日の統計値には表示されません。1日の途中でライセンス数を変更すると、その日の終わり（日付が変わる時点）に新しい値が反映されます。
Borrow	1日の終わり（日付が変わる時点）に持ち出されているライセンスの数を表示します。

サーバー稼動状況ログ

サーバーオプションを指定する

デバッグログ

デバッグルogsには設定が記載されており、サーバーの起動で起こるすべてのイベントや、サーバーおよび環境に関するその他の情報を記録します。問題が発生した際の解決のヒントになります。インストール時にデバッグルogsが自動的に作成されます。デフォルトではProgram Dataフォルダに保存されます。

デバッグログを開く

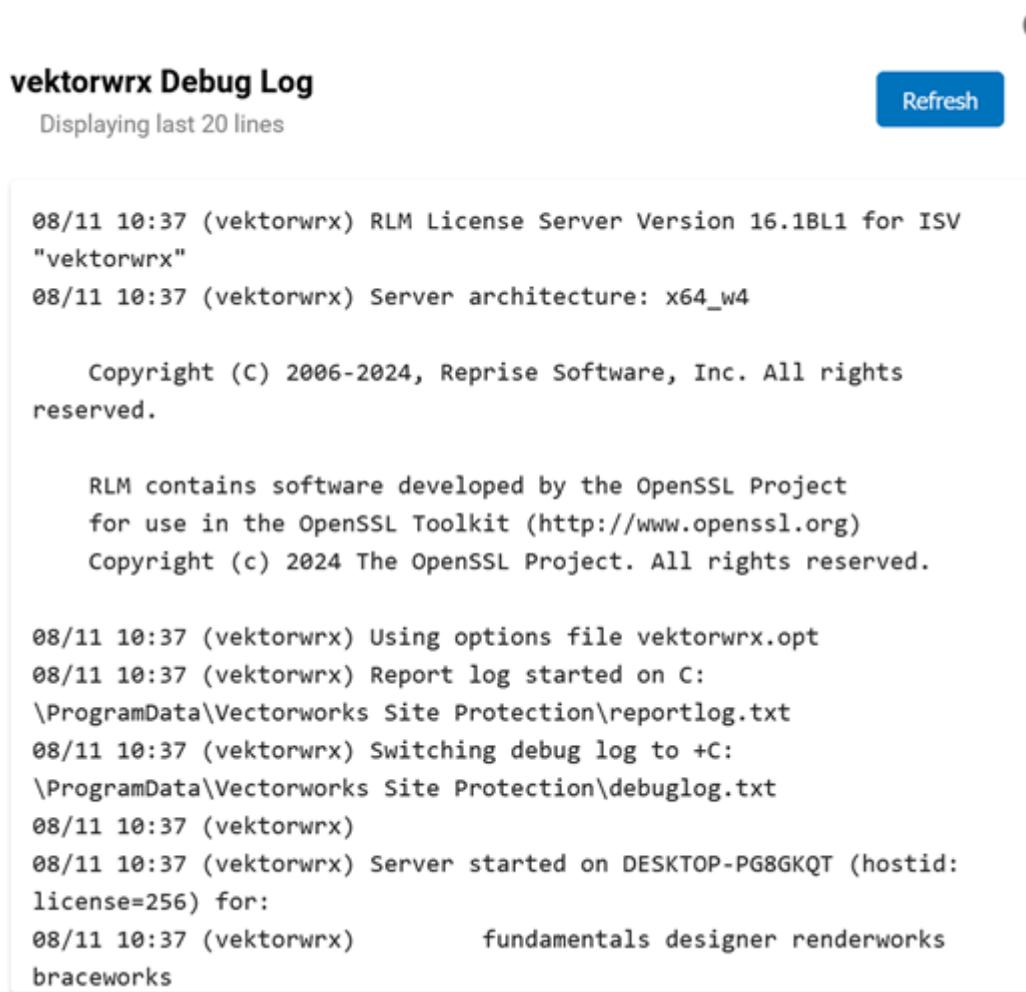
アクセス：ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューから、**診断>デバッグルог**を表示を選択します。

あるいは、ホームスクリーンのサーバーメニューから、**View Debug Log**をクリックします。

説明：ライセンス管理ソフトウェアのコマンドラインウインドウの情報の中から、ISVサーバーに関する最新の情報を20行表示します。主にクライアントのVectorworksが、ライセンスを使用または返却した記録が表示されます。

注：これらの機能の多くは、**ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー**からアクセスした方が便利です。デバッグルогを作成しなければ、データを記録できません。**別のデバッグルогファイルに切り替える**を参照してください。

Refreshをクリックして、デバッグルог情報を更新します。



The screenshot shows a window titled "vektorwrx Debug Log" with a subtitle "Displaying last 20 lines". A blue "Refresh" button is located in the top right corner. The main area contains the following log output:

```
08/11 10:37 (vektorwrx) RLM License Server Version 16.1BL1 for ISV
"vektorwrx"
08/11 10:37 (vektorwrx) Server architecture: x64_w4

Copyright (C) 2006-2024, Reprise Software, Inc. All rights
reserved.

RLM contains software developed by the OpenSSL Project
for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org)
Copyright (c) 2024 The OpenSSL Project. All rights reserved.

08/11 10:37 (vektorwrx) Using options file vektorwrx.opt
08/11 10:37 (vektorwrx) Report log started on C:
\ProgramData\Vectorworks Site Protection\reportlog.txt
08/11 10:37 (vektorwrx) Switching debug log to +C:
\ProgramData\Vectorworks Site Protection\debuglog.txt
08/11 10:37 (vektorwrx)
08/11 10:37 (vektorwrx) Server started on DESKTOP-PG8GKQT (hostid:
license=256) for:
08/11 10:37 (vektorwrx) fundamentals designer renderworks
braceworks
```

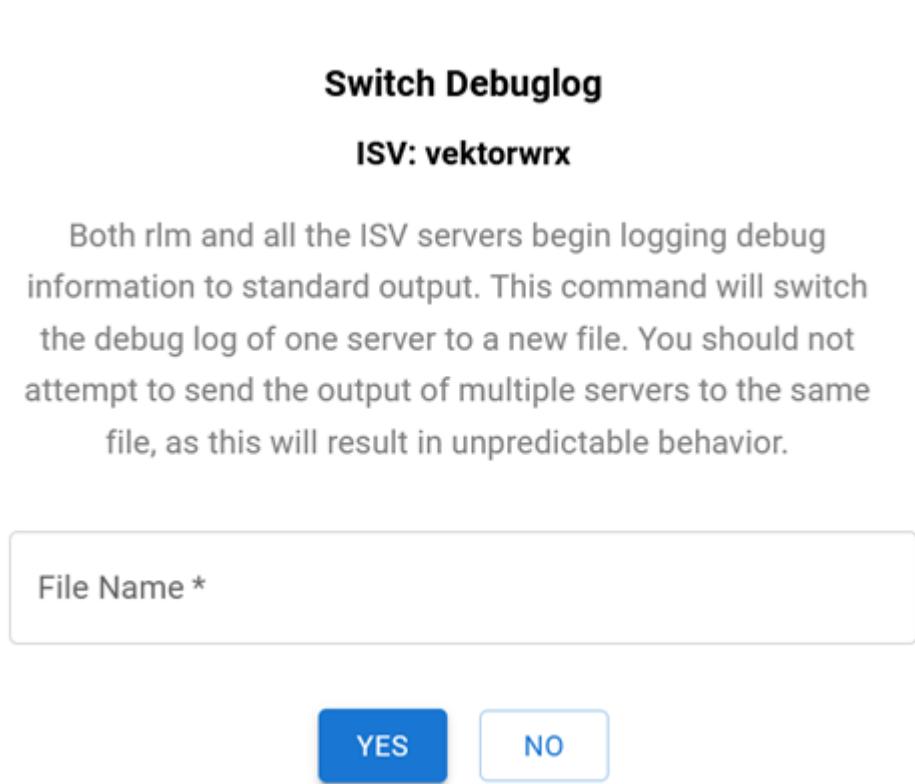
別のデバッグルогファイルに切り替える

デバッグルогを作成したら、サーバーを終了せずに、使用中のデバッグルогから別のログファイルを指定して切り替えることができます。

注： デバッグログのデータを記録するには、最初にコマンドプロンプトまたはターミナルでログを作成する必要があります。

1. サーバー管理のホームスクリーンにあるサーバーメニューから、**Switch Debuglog**をクリックします。

Switch Debuglog画面が開きます。



2. **File Name**に、ログが置かれているファイルパスをファイル名を含めて入力します。
3. **YES**をクリックします。

デバッグログが別のファイルに切り替わります。

サーバー稼動状況ログ

サーバーオプションを指定する

システム管理者は、モジュールおよびライセンスされたユーザーのオプションを制御できます。たとえば、一部のユーザーにはVectorworksライセンスを持ち出せないようにしたり、あるいは他のユーザーよりも短い期間だけ持ち出せるようにしたりすることができます。管理者は、レポートログおよびデバッグログファイルのオプションを設定することもできます。

ユーザー権限とモジュールを管理する最も便利な方法は、ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューを使用して**アクセス権限を設定すること**です。

オプションは、RLMソフトウェアと同じ以下のネットワークライセンスフォルダに置かれている `vektorwrx.opt` ファイルに保存されます：WindowsではProgramData\Vectorworks Site Protection フォルダ、Macでは/Library/Application Support/Vectorworks Site Protection/

注：ソフトウェアの持ち出しを許可しないユーザーが多い場合は、個別に除外するのではなく、`INCLUDEALL_ROAM`を使用して特定のユーザーのみが持ち出せるようにします。

サーバー構文で説明している構文を使用して、ユーザー オプションを指定または編集します。

注：構文と例では、クライアントまたはクライアントグループの権限を設定するにあたり、ユーザー、ホスト、インターネット、グループ、ホストグループ、インターネットグループの区別なく指定できます。

コマンド	説明	構文
<code>roam_max_days</code> (ローム_マックス_デイズ)	持ち出しの機能を、特定の日数（通常は最大30日）と特定のモジュールに制限します。 持ち出しできないようにするには、マイナスの値を使用します。	<code>ROAM_MAX_DAYS_持ち出し日数_モジュール名</code> 例： <code>ROAM_MAX_DAYS_3_architect</code> <code>ROAM_MAX_DAYS_-1_landmark</code>
<code>Exclude</code> (エクスクルード)	指定したクライアントに対し、モジュールの使用を制限します。	<code>EXCLUDE_モジュール_user_ユーザー名</code> 例： <code>EXCLUDE_landmark_user_sam</code>
<code>Include</code> (インクルード)	指定していないすべてのクライアントに対し、モジュールの使用を制限します。	<code>INCLUDE_モジュール_group_グループ名</code> 例： <code>INCLUDE_spotlight_group_designers</code>
<code>Excludeall_roam</code> (エクスクルードオール_ローム)	特定のクライアントの持ち出しを制限します。	<code>EXCLUDEALL_ROAM_user_名_姓</code> 例： <code>EXCLUDEALL_ROAM_user_susan_rodriguez</code>
<code>Includeall_roam</code> (インクルードオール_ローム)	特定のクライアントの持ち出しを許可します。	<code>INCLUDEALL_ROAM_group_グループ名</code> 例： <code>INCLUDEALL_ROAM_group_architects</code>
<code>Reserve</code> (リザーブ)	重要なクライアントのライセンスを予約します。	<code>RESERVE_ライセンス数_モジュール名_ユーザー_ユーザー名</code> 例： <code>RESERVE_1_spotlight_user_elena</code> <code>RESERVE_3_architect_group_engineers</code>
<code>Max</code> (マックス)	クライアント1台当たりにチェックアウトするライセンスの最大数を制限します。	<code>MAX_ライセンス数_モジュール名_ユーザー_名_姓</code> 例： <code>MAX_3_landmark_host_group_designers</code>

Debuglog (デバッグログ)	ISVサーバーのデバッグログを開きます。	<code>DEBUGLOG_ "ファイルパスファイル名"</code> 例： <code>DEBUGLOG_ "Log\dlog.txt"</code>
Debuglog + (デバッグログプラス)	ISVサーバーごとに異なるデバッグログを作成し、ログを上書きするのではなく、ログ情報を自動的に追加します。起動オプションとしても指定できます。 サーバー起動オプション を参照してください。	<code>DEBUGLOG_ "+ファイルパスファイル名"</code> 例： <code>DEBUGLOG_ "+Log\dlog.txt"</code>
Nolog in (ノーログイン) Nolog out (ノーログアウト) Nolog denied (ノーログデナيد)	ライセンスのチェックイン、チェックアウト、または拒否されたライセンスに関する情報をサーバーがデバッグログに記録しないように指定します。	<code>NOLOG_ 種類</code> 例： <code>NOLOG_denied</code>
Reportlog (レポートログ)	ライセンスの利用状況に関する情報をログファイルに保存します。レポートログ (small、std、またはdetailed) の場所、ファイル名、形式、種類を設定します。ファイルパスは相対パスでも絶対パスでも指定できます。相対パスを使用する場合、現在のフォルダはライセンス管理ソフトウェアのインストールフォルダです。	<code>REPORTLOG_ "ファイルパスファイル名" 種類</code> Windowsでの例： <code>REPORTLOG_ "C:\My_Reports\Reportlog.txt" detailed</code> Macでの例： <code>REPORTLOG_ "My Reports/Reportlog.txt" std</code>
Reportlog + (レポートログプラス)	ISVサーバーごとに異なるレポートログを作成することで、既存のログファイルが上書きされるのを防ぎ、ログを上書きする代わりに、ログ情報を自動的に追加します。	<code>REPORTLOG_ "+ファイルパスファイル名"</code>
Rotate (ロテート)	現在のレポートログを保存して閉じ、新しいログを作成します。	<code>ROTATE_ [daily weekly monthly #days]</code> 例： <code>ROTATE_daily</code>

注：オプションを削除してデフォルトの状態へ戻したい時は、入力したコマンドを削除した後でUpdate Optionsボタンを押してから、ISVサーバーを再起動してください。

.....
[サーバー管理のホームスクリーン](#)
[レポートログ](#)

デバッグログ

ユーザー管理

サーバー構文

サーバーコマンドには共通の書式を使用します（半角スペースは記号で表しています）。

コマンド名_パラメータ1_パラメータ2

- コマンド行はすべて半角で入力し、コマンド名および各パラメータは半角スペースで区切れます（例では半角スペースを記号で表しています）。コマンド名またはパラメータの中にスペースを含めることはできません。
- また、タブや改行記号も含めることはできません。各コマンドは別々の行に入力する必要があります。
- パラメータに< > & "の文字は使用できません。
- オプションファイルにコメントを追加するには、行を「#」で始めます。
- 一行の最大文字数は1024字です。
- 大文字／小文字は区別しません。
- ワイルドカード記号（*）を使用できます。この記号は任意の文字を指し、たとえばIPアドレスに使われている場合は、0～255のすべての値が当てはまります。
- 半角スペースの含まれているファイルパスは引用符で囲みます。
- GROUP、HOST_GROUP、INTERNET_GROUPコマンドを使用して、類似のユーザー、コンピューター、またはIPアドレスのグループに、制限や権限を適用できます。ただし、事前にグループを定義する必要があります。複数のグループを作成できるほか、同じコマンドを使用していつでも好きな時に既存のグループにメンバーを追加できます。

サーバーコマンドでは、共通のパラメータを使用してクライアント側のユーザーを定義します。

コマンド	説明	構文
user (ユーザー)	アカウントの制限または権限を設定するユーザー アカウント名を指定します。	USER_ユーザー名 例：USER_tom
host (ホスト)	アカウントの制限または権限を設定するコンピューター名を指定します。Macでは、「システム環境設定」>「共有」を選択し、「コンピューター名」の「編集」をクリックすると表示される「ローカルホスト名」を	HOST_ホスト名 例：HOST_pc10196

	使用します。Windowsでは「コンピューター名」を使用します。	
internet (インターネット)	アカウントの制限または権限を設定するIPアドレスを指定します。	INTERNET_IPアドレス 例： Internet_172.67.94.13 Internet_172.16.*
group (グループ)	複数ユーザーのグループを定義します。	GROUP_グループ名_ユーザー名1_ユーザー名2 例： GROUP_engineers_tom_sarah_franz GROUP_engineers_paul (paulを既存のエンジニアグループに追加します) GROUP_architects_laura_cheng_juan_jimenez
host_group (ホスト_グループ)	複数のコンピューター名のグループを定義します。	HOST_GROUP_ホストグループ名_ホスト名1_ホスト名2 例：HOST_GROUP_designers_pc10196_pc10567
internet_group (インターネット_グループ)	複数のIPアドレスのグループを定義します。	INTERNET_GROUP_インターネットグループ名_IPアドレス1_IPアドレス2 例： INTERNET_GROUP_drafting_1.1.1.1_2.2.*.*_3.3.3.3

.....

[サーバーオプションを指定する](#)

[サーバー管理のホームスクリーン](#)

ライセンス管理ソフトウェアを終了する

ISVおよびRLMサーバーを終了する最も便利な方法は、[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)のコントロールコマンドで操作することです。あるいは、サーバー管理のホームスクリーンから**Shutdown All Servers**をクリックした後、**Reread / Restart Servers**をクリックします。

RLMサーバーとISVサーバーは、別の方で個別に終了できます。通常、終了および再起動する可能性があるのは、ISVサーバーだけです。

動作に問題があるなど、完全に終了する場合は、ISVサーバーを終了させた後にRLMサーバーを終了させてください。

注：Vectorworksクライアントはサーバーに定期的に（10秒間隔で）自動接続し、接続確認を行います。サーバーが起動していない場合は、接続に失敗したことがクライアントに通知されます。開いているすべてのファイルを保存した後、Vectorworks製品が自動的に終了します。モジュールまたはライセンス

を持ち出し中の場合は、ISVサーバーを終了しても持ち出し中のクライアントには影響しません。ただし、ISVサーバーが起動していないと、持ち出しが期限前にライセンスを返却できません。

ISVサーバーを終了する

RLMサーバーを終了する

ISVサーバーを終了する

ISVサーバーを終了するには：

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、コントロール>ストップを選択します。

あるいは、サーバー管理のホームスクリーンから**Shutdown All Servers**をクリックします。

注：すべてのサーバーを終了すると、ライセンス管理ソフトウェアだけでなく、Reprise License Managerで管理しているすべてのソフトウェアが終了します。

ISVサーバーが終了します。

終了後も、管理画面からさまざまなタスクを行うことができます。

ISVサーバーを再起動する

ライセンスファイルが変更されたか、オプションが追加または削除された場合は、ライセンスファイルを再読み込みしてオプションを更新できます。ISVサーバーを終了した場合は、再起動できます。

注：ISVサーバーは、毎日深夜0時にすべてのライセンスファイルを自動的に再読み込みします。

現在のライセンス情報を再読み込みするか、またはISVサーバーを再起動するには：

ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニューで、コントロール>リスタートを選択します。

あるいは、サーバー管理のホームスクリーンから**Reread / Restart Servers**をクリックします。

ISVサーバーが実行中の場合は、ライセンス情報を再読み込みします。ISVサーバーを終了した場合は、再起動されます（この時にライセンスファイルが再読み込まれます）。

RLMサーバーを終了する

RLMサーバーを終了する

ISVおよびRLMサーバーを終了する最も便利な方法は、[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)のコントロールコマンドで操作することです。あるいは、以下の手順に従います。

通常、RLMサーバーを終了する必要はありません。システムが不安定な場合にのみ終了してください。

注：最初にISVサーバーを終了します。

Mac

ターミナルウインドウがアクティブの場合は、ウインドウ上でCtrl + Cキーを押すとプロセスが終了します。その他、アクティビティモニタを利用して終了することもできます。

アクティビティモニタを利用してRLMサーバーを終了させるには：

1. ISVサーバーを終了します。
2. アプリケーション>ユーティリティを選択して、アクティビティモニタを起動します。



3. プロセスリストで**rlm**を選択します。
4. プロセスの終了をクリックします。終了したいプロセスを確認して、終了をクリックします。

Windows

サーバーをWindowsサービスに登録してインストールした場合は、[Windowsサービスを停止する](#)を参照して、Windowsサービスを終了します。

ライセンスサーバーをWindowsサービスに登録してインストールしていない場合は、DOSプロンプト上でCtrl + Cキーを押すとプロセスが終了し、プロンプト画面が閉じます。

デバッグログの作成時またはポート番号の変更時にコマンドプロンプトでサーバーを起動した場合は、タスクマネージャに移動してプロセスを終了するか、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してプロセスを終了します。

```
./rlmutil rlmdown RLM
```

RLMサーバーを再起動する

ISVおよびRLMサーバーを再起動する最も便利な方法は、[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)のコントロールコマンドで操作することです。あるいは、以下の手順に従います。

RLMサーバーを終了した場合は、必要に応じてサーバーマシンを再起動します。

ライセンス管理ソフトウェアをWindowsサービスに登録するか、デーモンとしてインストールした場合は、自動的に再起動されます。

コマンドプロンプトまたはターミナルで、ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ（Windows）または/Library/PrivilegedHelperTools/com.vectorworks.rlmフォルダ（Mac）に移動して以下のコマンドを実行し、サーバーを起動することもできます。

Windows : rlm.exe -c "C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection"

Mac : sudo /Library/PrivilegedHelperTools/com.vectorworks.rlm/rnl -c "/Library/Application Support/Vectorworks Site Protection/"

この方法では、起動時にオプションを設定できます。[サーバー起動オプション](#)を参照してください。Windowsでは、この方法でスタンダードアロンのプログラムとして起動した場合、ソフトウェアの実行中は、コマンドプロンプトを開いたままにしておく必要があります。Macでは、ターミナルを閉じることができます。

[サーバー起動オプション](#)

[Windowsサービスの設定](#)

[ISVサーバーを終了する](#)

[サーバー管理のホームスクリーン](#)

Windowsサービスの設定

Windows環境では、ライセンス管理ソフトウェアはWindowsサービスとしてインストールされます。この機能により、マシンを起動すると自動的にライセンス管理ソフトウェアは起動し、システムの実行中はライセンス管理ソフトウェアが稼動し続けます。

サービスを簡単に停止または開始できる方法として、システムメニュー命令でコントロール>ストップまたはコントロール>スタートを選択することを推奨します。

ライセンス管理ソフトウェアはインストール時にWindowsサービスとして登録されるため、以下のオプションにより、ライセンス管理ソフトウェアをWindowsサービスとして停止または開始できます。

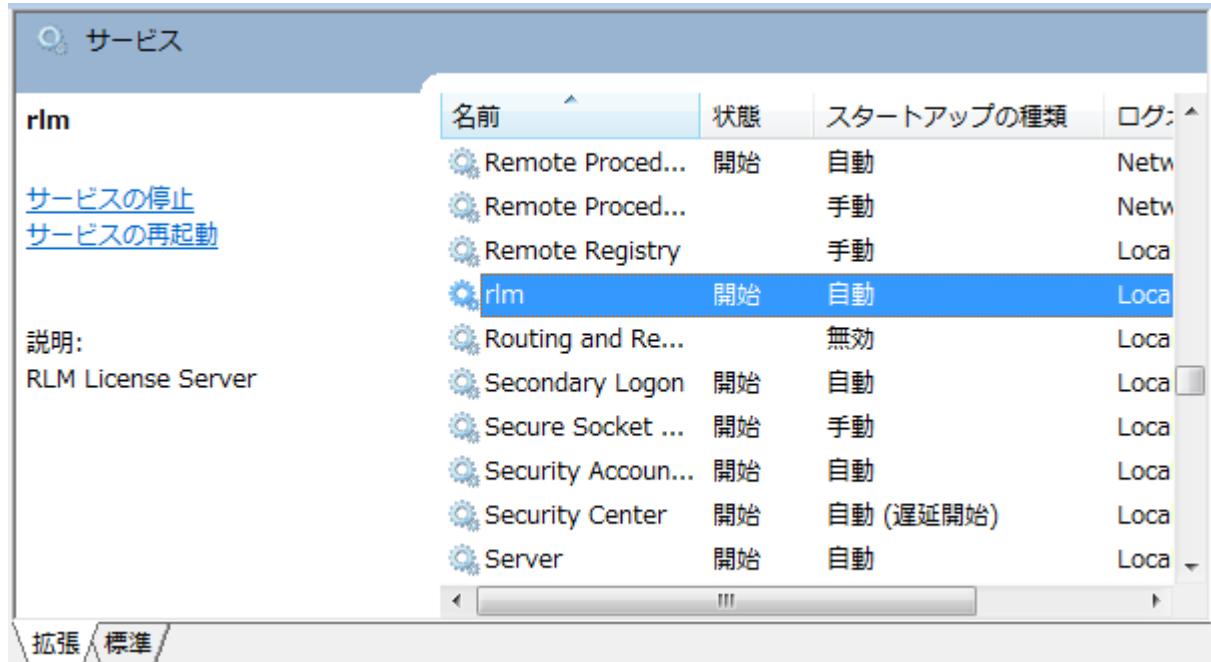
注：Windowsサービスを制御するには、管理者としてサーバーを起動する必要があります。

[Windowsサービスを停止する](#)

Windowsサービスを再起動する

Windowsサービスを停止する

1. **ISVサーバーを終了する**の手順に従い、ISVサーバーを終了させます。
2. Windowsのコントロールパネルを開きます。
3. サービスダイアログボックスに移動して、rlmを検索します。rlmをダブルクリックして、プロパティダイアログボックスを開きます。



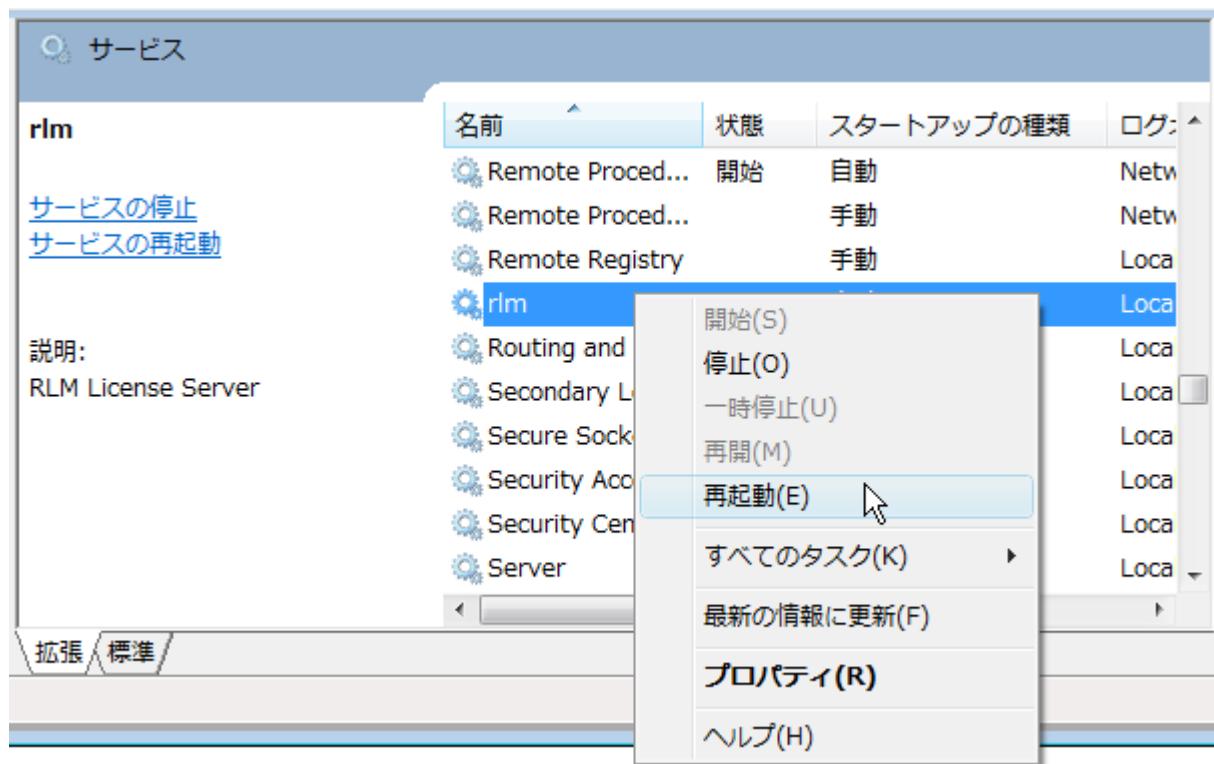
4. サービスの状態の停止ボタンをクリックするとサービスが停止します。



Windowsサービスの設定

Windowsサービスを再起動する

1. Windowsのコントロールパネルを開きます。
2. サービスダイアログボックスに移動して、rlmを右クリックします。
3. コンテキストメニューから**再起動**をクリックします。



注: ライセンス管理ソフトウェアの起動時にファイアウォールのブロックを解除するようにサービスを設定してください。

サーバー起動オプション

ISVおよびRLMサーバーを終了する最も便利な方法は、[ライセンス管理ソフトウェアのシステムメニュー](#)のコントロールコマンドで操作することです。あるいは、以下の手順に従います。

通常、サーバー管理者はブラウザのインターフェイスを使用してサーバーコマンドにアクセスし、サーバーオプションを設定します。一部のコマンドは、起動時にコマンドプロンプトのオプションで設定することもできます。あまり使わないごく少数のコマンドはこの方法でのみ設定でき、ブラウザのインターフェイスには該当するパラメータがありません。

注: ブラウザで設定できないコマンドの場合は、コマンドプロンプトまたはターミナルにコマンドを入力する代わりに、Windowsではショートカットを作成し、プロパティのリンク先のパスにオプションコマンドを追記して指定できます。Macではbashスクリプトを作成し、指定できます。

設定オプションを指定するには：

1. ライセンス管理ソフトウェアを終了します。[RLMサーバーを終了する](#)を参照してください。
2. コマンドプロンプト (Windows) またはターミナル (Mac) を起動します。
3. ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ (Windows) または/Library/PrivilegedHelperTools/com.vectorworks.rlm フォルダ (Mac) に移動します。
4. 起動コマンドに続いてダッシュと特定の起動オプションを入力し、Enterキーを押して、RLMサーバーを再起動します。

Windows : rlm.exe -オプションコマンド

Mac : ./rlm -オプションコマンド

注：デフォルトで、RLMではRLMと同じフォルダにあるライセンスファイルが使用されます。しかし、Vectorworksのライセンスファイルは通常その場所にないため、ライセンスフォルダを指定し、オプションで、以下に示す-c license_fileおよび-c folder_nameオプションを使用する必要があります。起動時に-cオプションを指定しない場合、RLMでライセンスを読み込むことはできません。

有効にするには、サーバーを起動するたびに起動オプションを指定する必要があります。

この表の例では、主にWindowsのrlm.exeを使用しています。Macの場合は./rlmを使用してください。

起動オプション	説明	例
-c ライセンスファイル	使用するライセンスファイル (.lic) を指定します（通常は、すべてのライセンスファイルを使用します）。 次のオプションを使用してフォルダ名を指定し、そのフォルダ内のすべてのライセンスを使用することもできます。	rlm.exe -c ABCD1234.lic
-c フォルダ名	ライセンスファイルのフォルダの場所を指定します。デフォルトでは、これらのフォルダは以下の場所になります： Mac : /Library/Application Support/Vectorworks Site Protection Windows : C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection すべてのライセンスを使用しない場合は、使用するライセンスファイルをフォルダ内に置き、オプションにフォルダ名を入力します。それらのライセンスのみが使用されます。	rlm.exe -c licenses rlm.exe -c "C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection"
-dlog ファイルパス ファイル名	デバッグルогの場所とファイル名を設定します。ファイルパスは、相対パスでも絶対パスでも指定できます。相対パスを使用する場合、現在のフォルダはライセンス管理ソフトウェアのインストール	Windowsでの例： rlm.exe -dlog "Log\dlog.txt" Macでの例： ./rlm -dlog "Log/dlog.txt"

	<p>フォルダです。再起動時、デバッグログは上書きされます。</p> <p>ブラウザのインターフェイス（Windows）でも使用できます。デバッグログを参照してください。</p>	
-dlog_+_ファイルパス ファイル名	<p>上述の手順でデバッグログを作成します。オプションに「+」を追加すると、再起動時に上書きすることなく、ログに自動的にデータが追加されます。</p> <p>ブラウザのインターフェイスでも使用できます。サーバー オプションを指定するを参照してください。</p>	<code>rlm.exe -dlog_+_"Log\dlog.txt"</code>
-nows	<p>サーバーがブラウザのインターフェイスに表示されないようにします。すべてのコマンドは、コマンドプロンプトまたはターミナルで実行する必要があります。</p> <p>注：ブラウザのインターフェイスを再び有効にするには、-nowsオプションなしでサーバーを再起動します。</p>	<code>rlm.exe -nows</code>
-ws_ポート番号	<p>管理画面のポート番号を変更します。サーバーのポート番号を変更するを参照してください。</p>	<code>rlm.exe -ws_5056</code>
-x_rlmdown -x_rlmremove	<p><code>rlmdown</code>と<code>rlmremove</code>コマンドを無効にするかどうかを制御します。<code>rlmdown</code>コマンドを無効にすると、ISVサーバーを終了できなくなります。<code>rlmremove</code>コマンドを無効にすると、クライアントが使用しているライセンスを削除するオプションが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> -xは両方のコマンドを無効にします。 	<code>-x_rlmdown</code>

	<ul style="list-style-type: none"> • -x_rlmdown • -x_rlmremove 	
-install_service_ サービス名 (Windows)	<p>サーバーソフトウェアをWindowsサービスとして登録します。サービス名を入力します。これは、サーバーマシン上にブラウザがなくてもサーバーソフトウェアを自動的に起動させたい場合に便利です。</p> <p>ブラウザのインターフェイスでも使用できます。</p> <p>Windowsサービスを停止するを参照してください。</p>	-install_service_rlm
-isv_startup_delay	<p>ISVサーバーの起動時間を、指定した秒数だけ遅らせます。これにより、IPアドレスを取得してライセンスを確認する時間を確保できるほか、ドングルドライバーを参照する時間も確保できます。</p> <p>この時間の遅延はインストール時に指定でき、実際に指定することが推奨されています。デフォルト値は60秒です。</p>	-isv_startup_delay_10
-v	<p>RLMサーバーを起動し、バージョン番号をコマンドプロンプトにプリントして、終了します。</p> <p>ブラウザのインターフェイスでも使用できます。サーバー管理のホームスクリーンからSystem Infoをクリックします。</p>	-v
-info	<p>過去24時間にサーバーマシンで実行されていたすべてのRLMコピーに関する情報をプリントして、終了します。</p> <p>ブラウザのインターフェイスでも使用できます。サーバー管理のホームスクリーンからSystem Infoをクリックします。</p>	-info

Windowsサービスの設定

ユーザー管理

トラブルシューティング

このセクションでは、よくある問題や可能な解決策について説明します。その他お問い合わせの多い項目や最新情報については、テクニカルサポートのナレッジベースも併せてご覧ください（英語）：

kbase.vectorworks.net

起動・認証時の確認事項

クライアントまたはサーバーの問題

ライセンス管理ソフトウェアのエラーメッセージ

起動・認証時の確認事項

以下では、サーバーまたはクライアントマシンの起動時や認証時のトラブルをまとめています。

- 管理者（Administrator）権限以外でログインしていませんか？

ライセンス管理ソフトウェアのインストールと実行には、管理者権限が必要です。ユーザー権限などでログインしている場合は、ログアウトしてから、管理者権限でログインし直してください。

- 必要なフォルダのアクセス権限に制限をかけていませんか？

システムを使用するには、以下のフォルダおよび任意のアカウントのVectorworksインストールフォルダで読み書き（フルコントロール）アクセスを有効にしておく必要があります：

Windows : C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection

Mac : /Library/Application Support/Vectorworks Site Protection/

- サーバーとクライアントの間で、時刻設定にズレはありませんか？

サーバーとクライアントのタイムスタンプに大きなズレが生じている場合は、認証できません。

- サーバーライセンスファイルとクライアントログイン設定で、同じポート番号を設定していますか？

通常は、デフォルト値の5053を使用してください。

- ログイン設定ダイアログボックスで、正しいIPアドレスを入力していますか？

サーバーマシンのIPアドレスを確認し、必要に応じて正しいIPアドレスを入力してください。

- ウイルス対策ソフトウェアまたはオペレーティングシステムの設定がサーバーまたはクライアントと競合していませんか？

セキュリティソフトの設定を確認してください。場合によって、ファイアウォールの設定を調整する必要があります。

クライアントまたはサーバーの問題

ライセンス管理ソフトウェアのエラーメッセージ

クライアントまたはサーバーの問題

状況：ライセンス管理ソフトウェアが起動しない。

- ドングルを使用している場合は、ドングルを接続し直し、ライトが点灯していることを確認してください。ライトが点灯していない場合は、別のUSBポートに挿入するか、サーバーマシンを再起動してみてください。
- 正しいライセンスファイルを使用していることを確認するには、ライセンス管理ソフトウェアのサーバーメニューからライセンスを選択します。ライセンスファイル名がLPF_XXXXXX.licという形式でリスト表示されます。XXXXXXは、シリアル番号の末尾6文字と一致している必要があります。一致していない場合は、ライセンスファイルを再度ダウンロードし、**ライセンス>ライセンスファイルを追加**を選択して、正しいライセンスファイルを追加します。
- ライセンスファイルが適切なフォルダに置かれていることを確認してください：

Windows : C:\ProgramData\Vectorworks Site Protection

Mac : /Library/Application Support/Vectorworks Site Protection/

- デバッグログから、サーバーの動作について何らかのヒントが得られることがあります。サーバーのステータスを確認して、ログのエラーメッセージをチェックしてください。[デバッグログ](#)を参照してください。

状況：クライアントソフトウェアが起動しない。

- サーバー上の意図しないISVオプションでユーザーに制限がかかっていないことを確認してください。
- ログイン設定ダイアログボックスでポート番号を確認してください。通常、**サーバーを自動検出**にチェックが入っており、デフォルトのポート番号には5053が指定されています。サーバーとクライアントの間で、ポート番号が一致していることを確認してください。
- ファイアウォールがサーバーまたはクライアントの通信をブロックしていないことを確認してください。
- ネットワークが原因で認証に問題が生じることがあります。pingを使用してサーバーとクライアント間の接続を確認し、問題のある場合はネットワーク状況を再確認してください。
- サーバーマシンのIPアドレスを動的（DHCP）に設定していると、サーバーとクライアント間の接続に問題が生じることがあります。固定IPアドレスを使用してください。

状況：クライアントの**Vectorworks**プログラムは終了しているが、ライセンスカウントが変わらない。

- ネットワーク接続の不具合や切断は、ライセンスカウントのエラーにつながることがあります。pingを使用してサーバーとクライアント間の接続を確認し、問題のある場合はネットワーク状況を

再確認してください。ネットワークを避けてテストします。クライアントマシンとサーバーのみで構成されるシンプルなネットワークを一時的に設定します。

- ネットワークの切断後にクライアントソフトウェアが強制終了されたり、何らかの理由で終了の信号がサーバーに届かなかったりした場合、ライセンスのカウントは一時的に誤った値になります。クライアントマシンのVectorworks製品を再起動して、適切に終了します。問題が解消されない場合は、サーバーを再起動します。

状況：製品モジュールやライセンスを追加したが、適切に動作していない。

- Vectorworks製品の起動時、ログイン設定ダイアログボックス内で**モジュールダイアログ**を表示させ、モジュール条件を変更して、Renderworksモジュール、Architectモジュール、Landmarkモジュール、Spotlightモジュール、Designerモジュールなどのモジュールを有効にしてください。
- 複数の異なるラインアップのプログラムがある場合は、クライアントマシン上で、ソフトウェアがVectorworksネットワーク版の正しいインストーラーを使用してインストールされたことを確認してください。
- サーバー上の意図しないISVオプションでユーザーに制限がかかっていないことを確認してください。
- 後でモジュールを追加した場合は、ライセンスファイルが更新されたことを確認してください。5053以外のポート番号を使用している場合は、更新後のライセンスファイルに正しいポート番号が記載されていることを確認してください。

状況：新しいクライアントライセンスが使用できない、またはライセンスカウントに含まれていない。

- ライセンスファイルは更新されていますか？
- 5053以外のポート番号を使用している場合は、更新後のライセンスファイルに正しいポート番号が記載されていることを確認してください。

状況：ファイアウォールを越えてライセンスを適用したい。

ファイアウォールを越えてライセンスを適用したい場合は、ファイアウォールにRLMおよびISVサーバーのポート番号を設定して、ポート越しにリクエストを通すようにします。

RLMサーバーは常に既知のポート番号を使用しており、この番号はライセンスファイル内のSERVERまたはHOST行で指定されています。

通常、RLMはすべてのISVサーバーを、起動前には不明なダイナミックポート番号で起動しますが、RLMがISVサーバーに固定のポート番号を割り当てるよう設定することは可能です。そのためには、ISV行でISVサーバーのポート番号を指定します。ポート番号はISV行で5番目のパラメータです。

`ISV_isv名_isvバイナリパス名_オプションファイル名_ポート番号`

ポート番号を指定するには、このISVサーバーのオプションファイルを指定しなければなりません。

ポート番号を指定したら、ファイアウォールに（RLM用の） SERVER行のポート番号とISV行のポート番号への接続を許可させます。

ポート番号を有効にするには、RLMを再起動します（ウェブインターフェイスまたはrlmrereadを使用してISVサーバーを再起動しても、RLMは再起動されません）。

ISV行にあるオプションの「port=xxx」パラメータで、ISVサーバーのポート番号を指定することもできます。

```
ISV_isv名_binary=isvバイナリパス名_port=ポート番号
```

または

```
ISV_isv名_isvバイナリパス名_port=ポート番号
```

これらの方法を使用した場合は、ISVオプションファイルを指定する必要はありません。

ライセンス管理ソフトウェアのエラーメッセージ

ライセンス管理ソフトウェアのエラーメッセージ

ライセンス管理ソフトウェアのエラー

実行中のコマンドウインドウやデバッグログに表示されます。

メッセージ : Could not access the license

ライセンスファイルが見つからないか、または破損しています。ライセンスファイルがあることを確認してください。必要に応じて、ライセンスファイルをパッケージからコピーし直してください。

メッセージ : Error in license count or hostid

不正なライセンスファイルがあります。残りのライセンスは正しく読み込まれています。ライセンスファイルをパッケージからコピーし直してください。

メッセージ : No license file for this host

- ライセンスファイルで、ホスト名が正しくない、または不正です。
- 複数のライセンスファイルがあり、そのすべてで不正なホスト名が設定されています。

ライセンスファイルが複数使われている場合は、すべてのライセンスファイルにホスト名が追加されます。ホスト名のうち1つにエラーがあるが他のホスト名が有効な場合は、有効なホスト名がすべてのライセンスに使われます。

このエラーを回避するには、すべてのライセンスファイルでlocalhostを使用してください。

メッセージ : License module list displays rlm_roam instead of modules

ドングルで指定されているライセンスのみを読み込むことができます。ドングルを接続し直し、ライトが点灯していることを確認してください。ライトが点灯していない場合は、別のUSBポートに挿入するか、サーバーを再起動してみてください。可能であれば、ドングルが別のマシンで動作するかどうかを確認してください。

メッセージ : **Duplicate license**

サーバー上でライセンスが重複して見つかっています。重複しているライセンスを削除してください。

メッセージ : **The following license has errors**

サーバーがエラーの種類を特定しようとしています。影響を受けていないライセンスは読み込まれたままであります。致命的なエラーがあるライセンスは読み込めません。最も可能性が高いのは、ISV、製品、またはバージョンに関するエラーです。ライセンス管理ソフトウェアを再インストールして、問題のあるライセンスを置き換えてください。

メッセージ : **Port nnnn in use**

サーバーマシンで、すでに他のアプリケーションなどがデフォルトのポート番号を使用しています。あるいは、ライセンス管理ソフトウェアとサービスが同時に起動されたか、またはポート番号が入力されていません。

通常、ポート番号が不正または不明であるか、ポートがビジー状態の場合は、デフォルトのポート番号が使われます。ただし、デフォルトのポート番号がすでに使用中の場合、サーバーはポートが空くまで待機します。

メッセージ : **Cannot create log file**

サーバーマシン上のログファイルへの書き込み中に、問題が発生しました。

- ログファイルの使用はオプションです。デフォルトでは、すべてのエラーはコマンドウインドウに表示されます。
- サーバーマシンの動作状態をチェックし、管理者権限でログインしているかを確認してください。

メッセージ : **Cannot set server lock; lockfile problems / Port 5053 in use; waiting / (rlm) Cannot bind Web Server port 5054**

これらのメッセージはほぼ必ず、複数のライセンス管理ソフトウェアが同一マシン上にインストールされており、他のプログラムがすでに実行中であることを示しています。セキュリティ上の理由から、複数のライセンス管理ソフトウェアを同一マシン上で実行することはできません。また、ライセンス管理ソフトウェアとサービスを同時に起動することは、個別のポート番号であってもできません。

RLMサーバーまたはISVサーバーのコピーが他に実行中でないかシステムをチェックして、プロセスを停止してください。その後、RLMサーバーを再起動します。

他に考えられる問題は、別のプログラムがポートを使用している場合です。「netstat」コマンドを使用して、別のプログラムがこのポートを使用していないか確認してください。

Hostsファイルにマシン名とIPアドレスが含まれていない場合は、ポート5054を使用しているプログラムがなくても、一部のシステムではこのエラーが出ます。HostsファイルにhostnameとIPアドレスを追加すると問題は解決します。

Vectorworksクライアント側のエラー

メッセージ：サーバーとの接続が切断されました！

再試行をクリックして通信の再接続を試みてください。

再接続ができなかった場合、以下を確認してください。

- ネットワークが正しく動作しているか確認してください。
- サーバーマシンの動作状態を確認してください。
- ライセンス管理ソフトウェアの動作状態を確認してください。
- ライセンス管理ソフトウェアを再起動すると、クライアントとの接続が切れます。接続を「再試行」するか、クライアントを再起動してください。
- 接続されているクライアントをライセンス管理ソフトウェア側からRemoveすると、クライアントの接続が切れます。管理者にお問い合わせください。

メッセージ：サーバーに接続できません。

- ネットワークが正しく動作しているか確認してください。
- サーバーマシンの動作状態を確認してください。
- ライセンス管理ソフトウェアの動作状態を確認してください。
- ログイン設定ダイアログボックスで、プライマリサーバーがユーザー名やホスト名になっている場合は、IPアドレスに変更してください。
- ログイン設定で、サーバーマシンのIPアドレスとポート番号が正しく設定されているかを確認してください。
- ログイン設定で、**サーバーを自動検出**にチェックが入っている場合はチェックを外し、サーバーマシンのIPアドレスを手入力してください。
- サーバーのISVオプションで、IPアドレスに基づく制限が設定されていないかを確認してください。

メッセージ：ご利用中のライセンス管理ソフトウェアは、このバージョンの**Vectorworks**に対応していません。サーバーマシンのライセンス管理ソフトウェアを最新バージョンに更新してください。ご不明の場合は、サーバーマシンのシステム管理者にお問い合わせください。

ライセンス管理ソフトウェアを最新バージョンに更新してください。

メッセージ：次のモジュールの持ち出し有効期限を__日間に設定することはできません。

許容持ち出し期間が、要求した持ち出し期間より短く設定されています。ソフトウェアの持ち出し期間を短くしてください。

メッセージ：次のモジュールの持ち出しは無効です。

ユーザーが要求したモジュールを持ち出すことは許可されません。許可されているモジュールのみを持ち出してください。

メッセージ：システムクロックが実際の日時よりも前に設定されているため、次のモジュールのライセンスはサーバーから取得できませんでした。

時計が正しい時刻とタイムゾーンに設定されていることを確認してから、コンピューターを再起動してください。問題が解決しない場合は、Vectorworks, Inc.またはお近くのディストリビュータにお問い合わせください。

状態：**Vectorworks**プログラムが反応しない。

ソフトウェアを終了してください。サーバーのデバッグログに「IN (client exit)」行が追加され、ライセンスが自動的にサーバーに返却されます。

サーバーとクライアントの通信が一定時間ないと、ライセンスファイルが自動的にサーバーに返却されます。

.....

トラブルシューティング